

大学・高専機能強化支援事業
令和7年度現地調査報告書

大学・高専機能強化支援事業選定委員会

調査日	令和7年 11 月 20 日(木)	区分	支援2大学(一般枠)
選定年度	令和5年度	大学名	長崎大学
設置等組織名	総合生産科学研究科 総合生産科学専攻 共生システム科学コース (博士前期課程・博士後期課程)	設置・定員増員年度	令和6年度
事業計画名	長崎大学が推進するプラネタリーヘルスの実現に向けた EBDM&EBPM による高度情報専門人材育成		

1. 進捗状況の概要

(1) 事業計画の具体的な取組の進捗状況

- ・博士後期課程の収容定員充足率に関して課題が認められるが、その他の取組については、事業計画が概ね計画通りに進捗していることが確認できた。
- ・総合生産科学研究科 総合生産科学専攻共生システム科学コースの博士後期課程において、春季入学時点で収容定員充足率 66%、秋季入学では 84%となった。昨年度と比較して減少傾向にあるが、学内外からの経済的支援の拡充や、産学連携により広がった社会との接点の活用等、より多くの社会人学生を確保するための取組を進めている。

(2) 好事例や把握された事業の成果

- ・STEAM 教育や高大接続事業を積極的に展開している。今後は、アシスタントとして参加する大学生には事前・事後の指導を適切に実施し、また、中学校や高専、SSH 校等の、より費用対効果が高いと思われる対象に焦点を当てた取り組みを行い、より高い成果を上げることを期待する。
- ・学生は学修した内容に非常に高く満足しており、非常に満足度の高いところに就職が決まっていた。また、学生の多くが周辺地域の出身であり、地域への愛着が強いことが分かった。その一方で、東京に就職し、地元を離れる学生が多かったが、卒業生との繋がりをうまく構築できれば、そこから有益なコネクションや、場合によっては共同研究などにも発展する可能性がある。また、博士課程に戻ってきてもらう道筋も生まれ、最終的には地域活性にも繋がると考えられる。

2. 指摘事項(留意事項・参考意見)

(参考意見)

- ・サテライトキャンパスには、電源の配置・数の不足による利用環境の不備や、就職支援窓口のプライバシー確保が不十分で利用が限定的であるといった課題があり、施設・設備環境の改善が必要と思われる。
- ・教員の採用については、現在特定の分野を指定して公募しているが、募集範囲を拡大することで、候補者も応募しやすくなることから、教員の確保につながる可能性があると考えられる。また、特任教員の採用も併せて検討することで、さらに確保の可能性が広がることも期待される。
- ・博士課程の充足、進学については、修士の就職の満足度が高く、学内からの進学は非常に厳しい。留学生は戦略的に安定的ではないため、社会人に目を向ける必要があり、カリキュラムの工夫、集中講義や夜間開講の実施など、社会人がリスキリングに取り組みやすい環境を整備する計画的な制度設計が求められる。具体には、データサイエンス教育の導入以前に入職した社会人や小中高で情報科を担当する教員などを対象に、基礎的なリスキリングや週1コマからの科目履修生制度を活用する等からはじめ、段階的に学習機会を拡充するとよい。